

博物館からのお知らせ

キャシー中島 楽園のキルト

日本国内におけるハワイアンキルトの第一人者として活躍するキャシー中島さん。20歳のとき、パッチワークキルトとの運命的な出会いがきっかけで、独学でキルトを縫い始めました。

それから40数年、キャシーさんは、お気に入りの花々を表現する幸せ、大切な人のために想う喜びを感じながら、キルト作品を制作しています。

展覧会では、ハワイ独特のモチーフから日本の風景など鮮やかな色彩をとりいれた四季折々の美しい情景作品や愛らしい小物作品を数々紹介します。

会期 **2017年 3/4(土)～4/9(日)**
休館日：火曜日

観覧料	当日券		
	大人	1,000円	800円
	中高生	600円	400円
※小学生以下無料(保護者同伴)			

問合せ先：MRT宮崎放送ラジオ・テレビ推進部
電話 0985-27-6619(月～金 9:00～17:00)



「シャワーツリー」(10連作)
H2500×W2000



「レインボーウル」
H2200×W2150

展示解説員の声

実は外にも…

昭和46年(1971)3月7日、現在の地に宮崎県総合博物館が開館しました。当時の展示室は、一般常設展示室(自然・歴史・民俗分野)に加え、美術展示室がありました。

美術部門は、平成7年(1995)の県立美術館開館とともに移されましたが、屋外の美術作品はそのまま残され、博物館の敷地内には6体の銅像などがあります。

そのひとつの「原の城」は、彫刻家・舟越保武の作品で昭和46年(1971)に制作されたものです。寛永14年(1637)におきた島原の乱が題材となっています。また、翌年の『第3回中原悌二郎賞』を受賞した舟越氏の代表作でもあります。

館内はもちろん、晴れた日には駐車場から民家園にかけて、森の木々や銅像を眺めながらのお散歩もお楽しみください。(森本)



原の城

観覧時間・休館日のお知らせ

観覧時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日 毎週火曜日(火曜日が祝日の場合は翌日)

★12/27～1/4は、年末年始に伴う休館。

★2/20～2/28は、館内メンテナンスに伴う休館。

博物館のホームページにはイベント情報、寄せられた質問とその答え、過去の「森の通信」、職員ブログなどの情報が盛りだくさんです。ぜひアクセスしてみてください。

宮崎県総合博物館

検索



森の通信

第61号



発行日/2016年12月12日

発行 / 宮崎県総合博物館 〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番4号 TEL(0985)24-2071
http://www.miyazaki-archive.jp/museum/ FAX(0985)24-2199

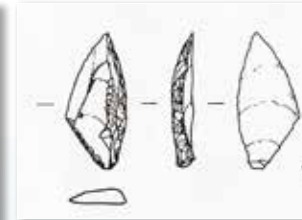
特別展

「ここがわかった! 県南調査展」

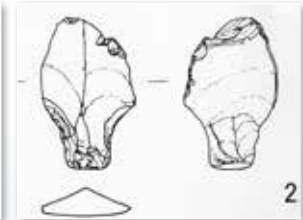
平成23年度から26年度にかけて、県南地域の動物・植物・地質・考古・歴史・民俗の6部門について調査しました。その成果について、パネルや写真、資料などを展示して紹介します。



サツマサンキライ



後藤野遺跡出土石器



金米請払帳



ウニ捕り



日南海岸観音礁 キノコ岩



御崎馬

2017年

1/14(土)～2/19(日)

観覧時間 9:00～17:00(入場は16:30まで)

休館日 火曜日

観覧料 無料

〈各部門の展示内容〉

動物部門

陸産貝、鳥類、干潟の底生動物や御崎馬、カワネズミの生息状況を紹介

植物部門

県南の海岸周辺の植物を紹介

地質部門

日南市猪崎鼻の生痕化石や、日南海岸のキノコ岩(コンクリーション)、串間市長浜海岸の鯨類上腕骨化石などを紹介

考古部門

県南・県西地域の旧石器の遺跡と、宮崎県の旧石器の変遷を紹介

歴史部門

明治初期の飢饉の伊東家文書「金米請払帳」から、明治初期の地方行政の実態を紹介

民俗部門

串間市都井付近にある宮ノ浦と立宇津の2箇所の漁村の聞き取り調査の成果を紹介



宮崎の歴史を学ぶ

「宮崎の歴史を学ぶ」というタイトルで、宮崎の歴史について学ぶことができる講座を毎年3回開催しています。本年度は、右表のような内容でした。本年度は、秋に特別展「賀来飛霞のみた自然と歴史 ～延岡藩と高千穂採葉記～」を開催したため、第2回及び第3回は、特別展の関連講座として実施しました。

講師には、当館職員だけでなく、中世・近世の歴史に詳しい県内在住の研究者を招いています。そのため、講師が現在研究してわかってきたばかりのことや、現地で調査してきたからこそわかったことなどを学ぶことができます。

かつては参加者が20～30名でしたが、ここ数年、参加者が少しずつ増加し、時には60名を超えることもあります。同時に、若い方や女性の方の割合もやや高くなってきました。

来年度も、「宮崎の歴史を学ぶ」を3回開催する予定です。事前申込みは不要です。たくさんの方々に宮崎の歴史を学んでいただきたいと思います。(佐藤)

	講師(敬称略)	タイトル
第1回	関 周一 (宮崎大学准教授)	中世の幕開け 荘園の成立
第2回	佐藤 省吾 (当館職員)	賀来飛霞のみた自然と歴史
第3回	増田 豪 (延岡市内藤記念館専門学芸員)	宮崎を襲った過去の 津波被害と復興



せき たい

宮崎の歴史情報 石帯(石製帯飾具)

平成27年度の県道飯野松山都城線(都城志布志道路)道路整備工事にともない、県埋蔵文化財センターが都城市笹ヶ崎遺跡の発掘調査(第三次)を行いました。そして、遺跡から頁岩製の石帯(石製帯飾具、写真上)が、ほぼ完全な状態で出土しました。この石帯は形が円いので「丸鞆」帯ともいいます。

石帯は古代から使われ始める装飾品で、官人など特定身分の者のみが使用していたと考えられています。『和名類聚抄』には「革帯以其所附玉石角等為名」と記され、腰に結びつける革帯に玉や石、角によって作られた飾りが施されていたことがわかっています。

宮崎県内の石帯の出土例は少なく、古代の国・郡役所があった西都市域に集中していますが、都城市でも高木町の並木添遺跡に出土例があります。今回笹ヶ崎遺跡でも確認されましたが、遺跡の周辺地域に地域の有力者の居館跡や公的機関の跡が存在していた可能性が考えられます。当館歴史展示室(古代)では同形の石帯レプリカを展示しています(写真下)ので、ぜひご覧ください。(粕木)



笹ヶ崎遺跡出土石帯(左:表面、右:裏面)
(宮崎県埋蔵文化財センター蔵)



歴史展示室の石帯

参考:『国史大辞典』(吉川弘文館)の「石帯」の項、「宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第240集 笹ヶ崎遺跡(第一次～第三次調査)」(2016年3月)

枕状溶岩

「枕状溶岩」は、陸上ではなく海の中の火山活動によってできたものです。水中に流出した溶岩は水で冷やされて周囲が急速に固まり、薄皮のような部分ができます。内部の溶融した熱い溶岩は、薄皮部分を破って次々と流れ出します。これを繰り返してできた岩石は、円筒状の枕をいくつも積み重ねたように見えることから「枕状溶岩」と呼ばれます。もともとは玄武岩質の黒っぽい岩石ですが、変質によって緑色や赤色になっています。はるか南方の海底にあった枕状溶岩が、プレートという岩盤の動きによって現在の位置まで運ばれ、地表に露出しました。

展示標本(写真上)は熊本県人吉市のもので、同時に採集したものが博物館正面玄関近くにある銘板(写真下)としても用いられています。触ることができる標本ですので、ぜひ「枕状」であることを体感してみてください。(濱田)



ツチアケビ(ラン科)

これまで植物部門では、県内の希少植物のレプリカ等を製作し、宮崎県の貴重な自然環境について紹介してきました。ツチアケビは、本年度の夏の特別展「ワクワク!ふしぎ生物ワンダーワールド」で初公開しました。

この植物は、光合成をするために必要な緑色の葉を持たず、ナラタケというキノコから栄養をよこどりしながら成長する「菌従属栄養植物」です。花が5～6月に咲き、7月下旬には写真のように赤いウインナーのような果実をつけます。

県内では森林開発の影響もあり、野生のようすを見るのが少なくなりましたが、博物館のある「神宮の森」では時々見られる植物です。宮崎市の中心部にある博物館ですが、「神宮の森」のおかげで博物館の周りには豊かな自然が残っています。(岩切)



ツチアケビ(模型)

「虫の名は?・・・オオシロカミキリ」

カミキリムシは、細長い体型で体長以上の長さがある触角をもち、カミキリの名の由来になった大きなはさみ状のあごをもつことが主な特徴です。また、日本に生息する甲虫類の中で最も多いなかで、約800種を数えます。世界的に見ると2万種を超えるといわれています。体の大きさも多様で、20cmを超える種から3mm程度の種も存在しています。

今回の問い合わせの種は、「オオシロカミキリ」。背中白い部分が、左右それぞれ2カ所の紋でくびれてみえるのが特徴です。(横倉)



オオシロカミキリ